

昭和二十二年六月十二日（第三種郵便物認可）
令和二年五月十三日発行（毎月一回土曜日発行）

定価 五〇〇円

第944号

高 知 道 會
龍 跳 書

第七十六卷

6

月 号

田中幽峰書

零殘十三字方勁截鐵釘
猶見光彩燦落：如晨星

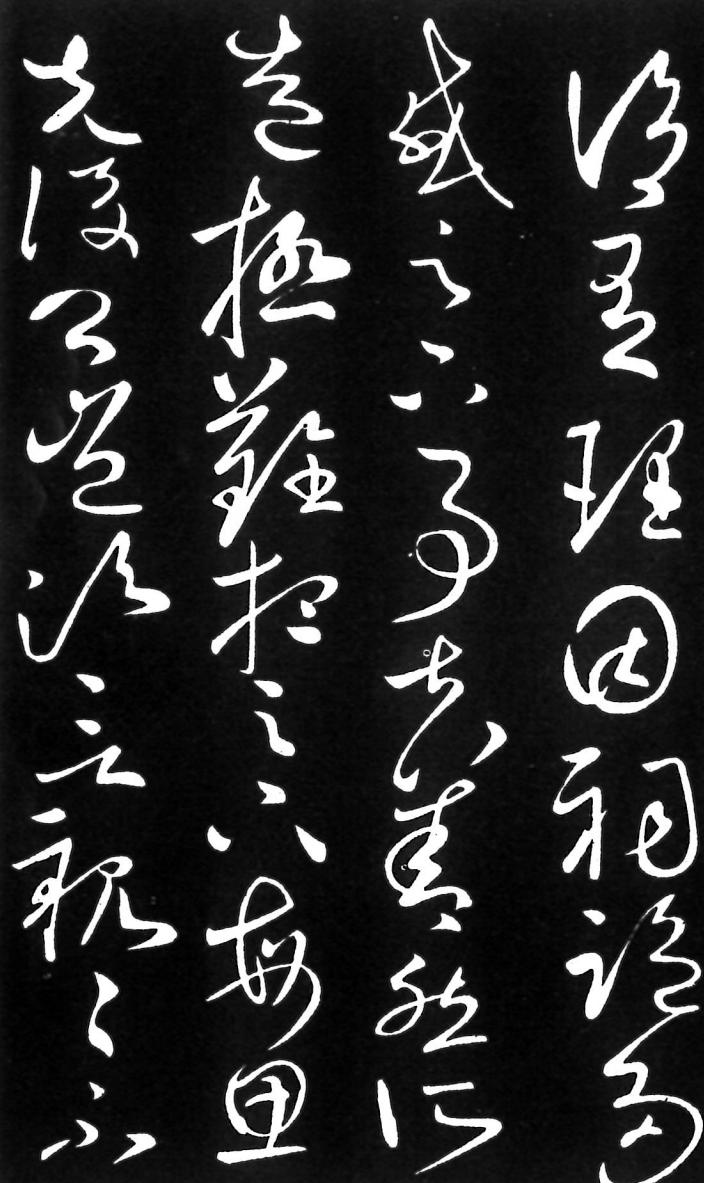
零殘十三字 方勁鐵釘を截つ

猶光彩の燦たるを見る

落落晨星の如し

玄度帖

王獻之



復有理因祠監多

感足下事甚善然所

造極難想足下每思

先後卿豈須言親々不

玄度帖 王献之

王献之（三四四一三八八）は、王羲之の子です。王羲之の「十七帖」のなかの「吾に七男一女あり」とあるうちの七番目の男子です。

古くから書の世界では、父羲之と並び称され「二王」あるいは「大王」「小王」とも呼ばれていました。

王献之の書からは流動感にあふれる、あざやかな筆の動き、なめらかな線、大、小の変化と連绵を生かした構成、などが特色であると言われています。

羲之の作品とともに、宋の大宗によつて作られた法帖に収められています。

廣末幽念書

烟消門外青山近 露重窓前綠竹低

烟消門外青山近
露重窓前綠竹低

廣末幽念書

行題壁子敬密拭除之輒書易其處

隅田亘心臨

臨行題壁子敬密拭除之輒書易其處

規 定 課 題

梅川桂龍書

戸
南
扇
山
當

南山

戸扇に当たり

梅
川
桂
龍
書

園 澄
林 水
映 脣

澄水
ほきすい

園林に映す
えんりんに 映す

福 原 曉 雲 書

雨聲荷葉香し



出間桂堂臨

玄度帖

王獻之

然所造極難

極難

此何生色

平
山
峰
巒
翠
因
煙
出
百
簡
爾
簡
能
草
廟

西山極山臨

篆 榴 謝 安 核 在 子 教
上 真 三 批 帽 尾 也

壬戌年夏月

岡林邦心臨

山清氣爽九秋天黃

菊紅菜滿江舟千

邦心

中平幸仙臨

茲之宗周以之哲輔誕
寒降德承文繼

中平幸仙

古佛坐無言

老三友願僧行射于寧
密為尊涼之友

赫之宗周以指補誕
靈降德承文繼

吉直淨貞圓繼安豐
金剛紀哲智鏡大成

松竹苗因夏溪山去
為秋久賡白雪

深瀬綠堂

中平美峰

岩河里華

須藤玲華

然而天地包乎陰陽
而易識者以其有

門鉸者常十葉寺院
下滿林立在寺也

以生牧牛机父弟而
子惧如之少也

固必友幼而如故復
差之亦以為也

能者三小弟而情涉
易也也于終始而

高橋桜芳

北村哲郎

笠原多嘉

岩谷紅花

大原桂園

条幅当選作品 福原曉雲 選評

★天位

須藤玲華君||運筆呼吸長くおおらか、佛の坐る姿が見えてくる。
野中恵花君||争座位にしては線がか細い。もつと大胆に線の追求
を願う。

岩河里華君||流れ良く無難に書している。もう少し筆力が欲しい
ところ。

中平美峰君||灌頂記臨、筆力有り。臨書する箇所を研究のこと。
深瀬綠堂君||米芾にしては墨量、線の切れ不足、精進を願います。

★地位

大原桂園君||集字聖教序にしては墨量不足、線に対して筆圧と抑
揚の研究を望みます。

岩谷紅花君||流れは良い。規模小なり。気持ちの中で動き大胆に。
笠原多嘉君||章法流れ良い、筆の上下運動、メリハリを付けて下
さい。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◇

5月の審査は24日(日曜)午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。
※審査終了後、総務会の予定です。

★人位
北村哲郎君||運筆達者、これから更に筆力、抑揚の研究を。
高橋桜芳君||書譜臨、無難なくやさしい。もつと筆力を要したい
です。

風港

景の

中学一年課題　廣末幽念　書

放学

送校

木池
立の

な 大
船 き

山魚

山

小学三年課題

大原桂園書

安

全

ら
ば

小学一年・ようち・ほいく課題

市原處艸書

た

と

は

学校名	生き物は、外の世界とつながり、一つの個体としてつながり、長い時間の中で過去の
年	生き物たちとつながるといふ
級段	うに、さまざまなるとがり
氏名	の中では生きているのです。

学校名	あなたは、春のどんなところが好きですか。
五年	枕草子
級段	参考に、あなたの感じる春らしいものや様子を、文章に書き表してみましょう。
氏名	

学校名	こうした経験からつた
四年	えたいことは、自分にと つて最高のものを実現す
級段	るためには、まず動く、
氏名	そして考えることが大
	切だということです。

学校名	まわりの色と見分けに
年	くい体の色は、できから
級段	身をかくすのに役立ちます。
氏名	す。このように、身をかくすのに役立つ色のこと

をほー色といいます。

がっこう	れ い で し た	ゆ う た ん み た い で き	い ま し た 。	ほ が た く さ ん さ い て	原 っ ぱ に 、 た ん ほ
二 ねん					
きゅう だ う ん なまえ					



がっこう				
ほ ねん	か た	か さ	な が	あ め
きゅ うん	つ		ぐ	
なまえ	も		フ	
	り			

たけむら・しじやく
(本名・健吉、1898~1975年)香南市赤岡町生まれ。田内祥翠に手ほどきを受ける。川谷尚亭に師事。日展前身の泰東書道展をはじめ全国的主要な展覧会で最高賞を取る実力者が県外に出す、30年龍跳書道会を創立。その後月刊書道誌「龍跳」を創刊し門弟の育成に尽力。県展審査員を15回務める。64年県文化賞。



昭和の初めごろ(1930年)前後、県内の書家で影響力を持っていたのは川谷横雲と竹村子雀が双璧だったといふ。

「横雲は師範学校教員として県内の書道教育に及ぼした指導力は特筆すべきだった。この創刊し門弟の育成に尽力。県展審査員を15回務める。64年県文化賞。

書家と碑文 竹村子雀

16

火曜掲載

香南市赤岡町の赤岡小学校に代表作と言われる「一徳」の碑(2002年)がある。

高雅で凜とした氣品

古法を踏まえた握るぎない筆跡は、高雅で凜とした氣品が漂う。それなりながら大きくなる」という言葉があるが、そのためにはやはり大きな筆が必要だ。

な広がりと温もりが感じられる「書はその人の魂の光である」という言葉があるが、そのためにはやはり大きな筆が必要だ。

「書のために生まれ、書のために活躍して、世を終えた人と思えてならない」と三千萬は振り返っている。

(池添正)
〔敬称略〕



れに対し子雀は、努力によつて打ち立てた書風と行動力で県内各地で門弟の養成に情熱を傾け、書の裾野拡大に尽力した」と福原云外が話している。

子雀の指導方針は「にも二にも臨書。書は家を建てるのと同じで、ます土台をしっかりと築くこと。その上に自由な個性の建築ができる」が口癖で、中国の古典を範とし、保守の正統派を守つて微動だにしなかつた。

香南市赤岡町の赤岡小学校に代表作と言われる「一徳」の碑(2002年)がある。

この碑は、子雀が訪ねてくる。子雀は「県内書道の発展

への考え方などで「論や仲たがいも少なくなかつた。高松幕

真、南不乘、松岡雲峰、光本三千萬といった人たちがそのことを文書に残している。

こんな一面もある。書展のことで対立、決別していく三千萬と子雀だが、ある日、そんな三千萬を子雀が訪ねてくる。子雀は「県内書道の発展

たい。そのために小異を捨てて大同につく。それには弱い味方多数より、強い敵一人と握手したい」と手を差し出してきたという。



(一段目)

野島桂山選評

野島桂山

選評

到來生

到來生

到來生

到來生

隱心

隱心

隱心

隱心

ねむる

ま

まつ

い

る

く

ま

つ

き

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

つ

く

ま

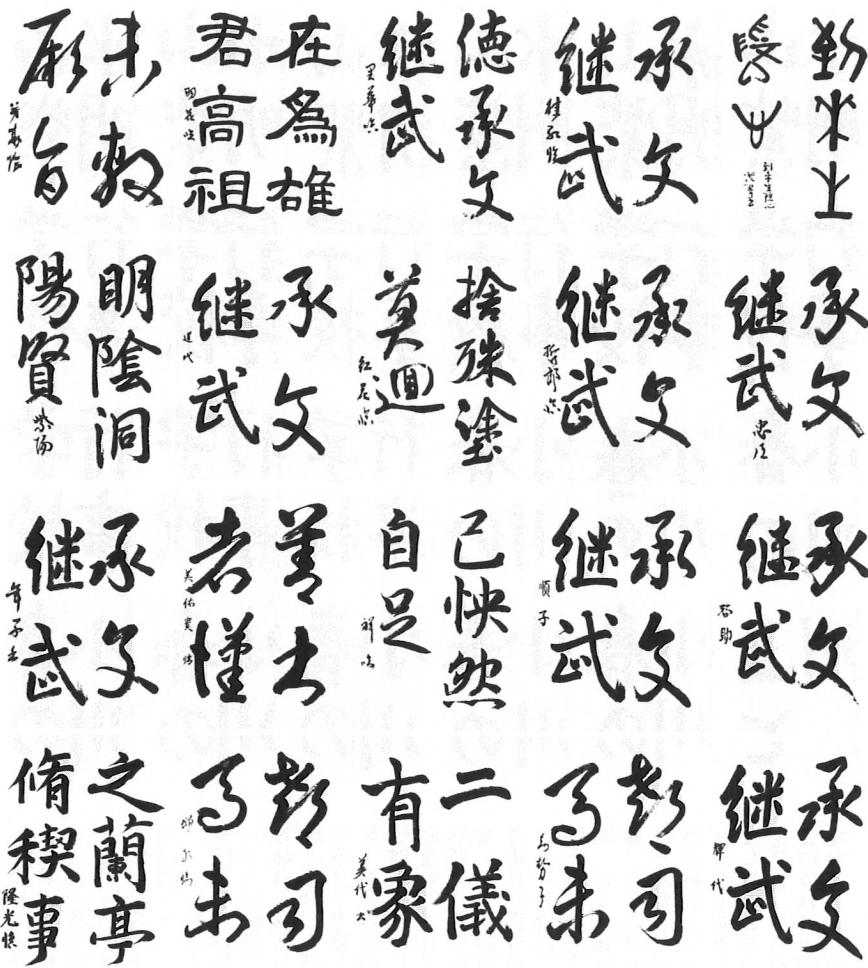
つ

く

ま

つ

く



(一段目)

梅川桂川 選評

澄翠君||明るい作品。背筋が伸びますね。

桂紅君||しつかりとした線で、迫りくる強さがある。

里華君||線質が深く強い、安定感もある。

羽花君||ゆつたりとした書きぶりで

落ち着きがある。

芳春君||達筆で線も厳しい。

忠臣君||運筆良く力強い。

哲郎君||流れ良く臨しているが、一

字目の渴筆が気になる。

紅花君||素直に臨し明るい作。

道代君||伸びやかで力強い。

紫陽君||力強くまとまりも良い。

(三・四段目) 松下紫香 選評

啓助君||厳しい線あり、作品も明る

い。

順子君||すつきりとまとめている。

祥君||筆力ありよくまとめている。

美佑貴君||落ちついで書けていく。

年子君||力みなく安定した作品。

輝代君||すつきりとまとめているが

渴筆もほしい。

(四段目) 中平美峰 選評

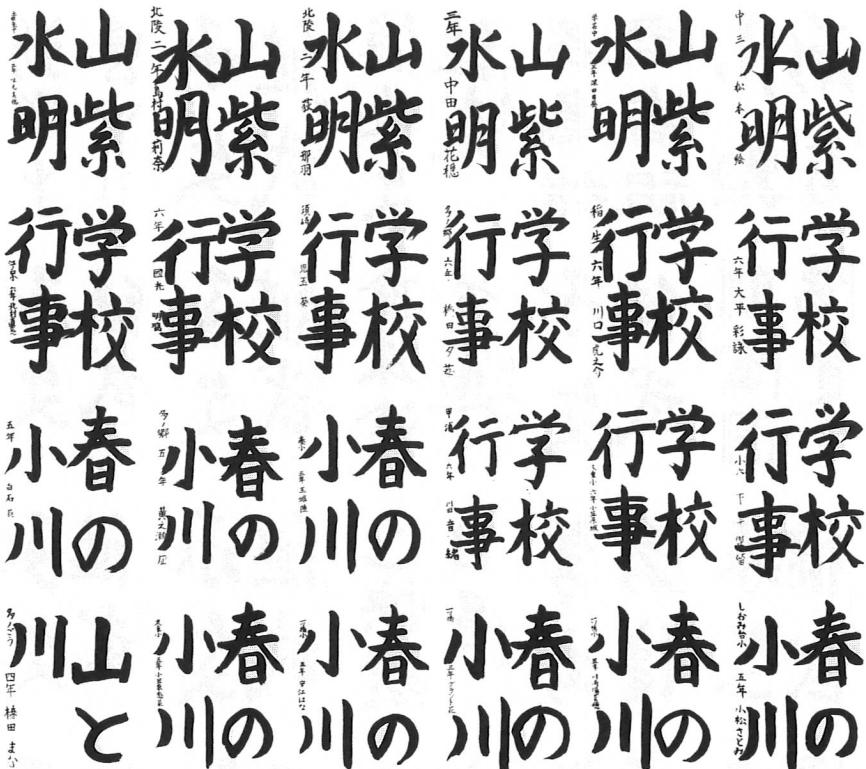
知勢子君||筆力があり、まとまっています。

美代君||力強く書けています。

増水君||しっかりと書けています。も

う少し流れが欲しい。

隆光君||よく書けています。終筆に
氣をつけて。



(一段目) 中学部

岡林邦心

選評

絵君 || 伸び伸びとして立派。
日葵君 || 落ち着いて良い。

花穂君 || 良くまとまっている。
那羽君 || ゆったりとして良い。

莉奈君 || どつしりとして良い。
「水」の二画目を少しあ
けると更に良い。

美穂君 || ていねいで良い。
(二・三段目) 小学六年

岡林邦心 選評

彩詠君 || 落ちつきのある作。
虎之介君 || のびのびとして良い。

夕苺君 || 力強くて良い。
葵君 || のびのびとして良い。

明璃君 || どつしりとしてまとまりあり。
直亮君 || 力強くて良い。

那留君 || 大らかにまとめ良い。
颯君 || 伸び伸びと書いている。

音緒君 || 骨格がしつかりして良い。
(三・四段目) 小学五年

大原桂園 選評

陸君 || すつきりと明るい作品です。
風君 || 力強い線で書けています。

葵君 || のびやかに書けていて良い。
さとみ君 || どつしり、しつかりしています。

陽菜穂君 || ていねいに書けています。
グラント花君 || よくまとまっています。

はな君 || おちついて書けました。
恋菜君 || ていねいな作。これからもがんばってね。

(四段目) 小学四年

野中恵花 選評

茉奈君 || 強い線でしつかり書けている。

四年 森田 まへる

五年 田中 まへる

六年 田中 まへる

七年 田中 まへる

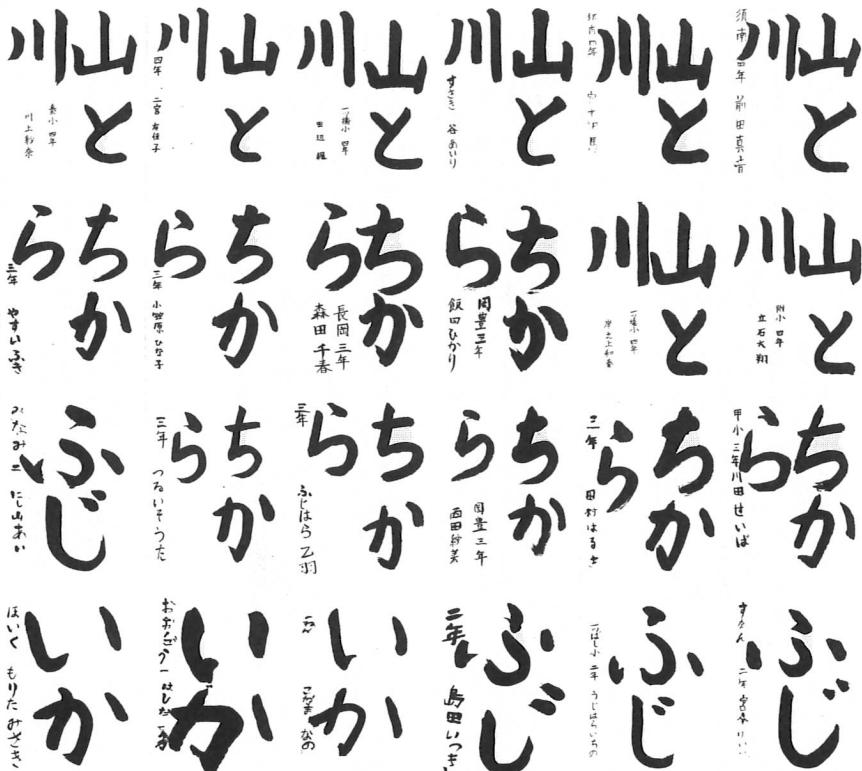
八年 田中 まへる

九年 田中 まへる

十年 田中 まへる

十一 田中 まへる

十二 田中 まへる



(一・二段目)

眞音君||筆使いも良く、線ものびのびと良い作品。

颯馬君||しっかりと書け力強い作品ですね。このちよし

あいり君||ていねいで形も良い字です。このちよし

須市四年
前田吉吉七百
立石大助

楓君||のびのびと暖かい良い字です。

有佳子君||形も良くさわやかな線です。

紗奈君||きりっとした線で良い作品。

大翔君||ていねいに書け暖かい字ですね。

和奏君||紙面いっぱいにどうどうとした作品です。

(二・三段目) 小学三年
ひかり君||おちついた筆はこびでおもみを感じます。

千春君||あかぬけのした字です。力あり。

ひな子君||明るくかけています。

ふき君||力強くおちつきがあります。

せいば君||元気のある字、少し速いところもあるね。

はるき君||筆いっぱいのすみで力づよい。

紗菜君||少し速いか少しゆつくりかくとよくなるね。

乙羽君||のびやかさがあるともっとくなるね。

そうた君||おちつきのある字です。「か」の点がよい。

(三・四段目) 小学二年
あい君||力づよく重みを感じます。

りいは君||少しずみが多かつたか、でも思いきりをか

ります。

いちの君||まじめにかけています。

いつき君||はじめての作品すごい。これからがたのし

みです。がんばつてください。

(四段目) 小学一年・ようち・ほいく
なの君||ていねいにかけています。

てんが君||ちからづよく、げんきにかけました。

みさき君||のびのびとかけました。

岡本志峰
選評

硬筆優秀作品

浦ノ内 弘瀬英乃玲
宮本 莉瑚

秦浦ノ内 矢野結理奈
玉城 陸

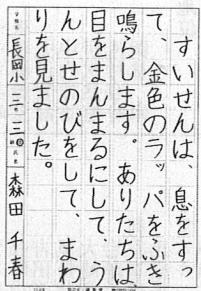
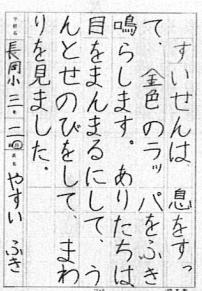
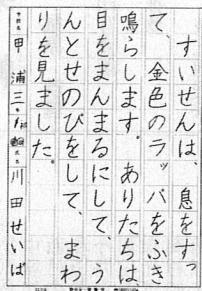
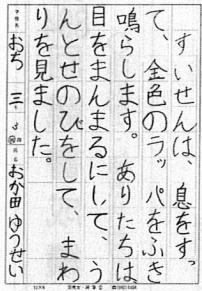
越知 安江
野瀬ちひろ

一つ橋 川上紗奈
岡村朋乃佳

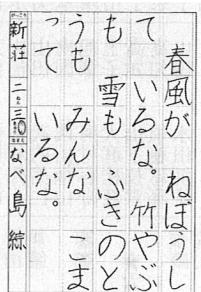
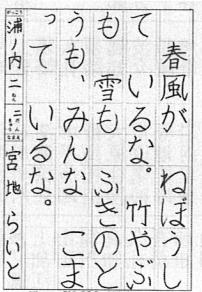
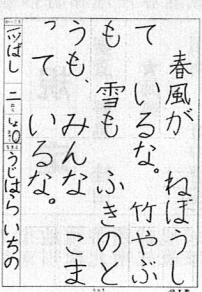
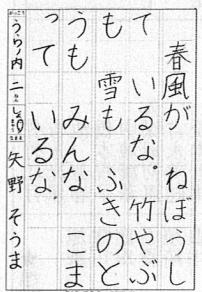
<p>多ノ郷 橋田 夕苅 浦ノ内 矢野繪理奈</p>	<p>一まいの紙から、船が生まれる。飛行機が生まれる。ひとかたまりのねん土から、象が生まれる。つぼが生まれる。生まれる、生まれる。わたしたちの手から次々と。</p>
<p>多ノ郷 橋田 夕苅</p>	<p>弘瀬英乃玲</p>
<p>秦浦ノ内 矢野結理奈</p>	<p>一まいの紙から、船が生まれる。飛行機が生まれる。ひとかたまりのねん土から、象が生まれる。つぼが生まれる。生まれる、生まれる。わたしたちの手から次々と。</p>
<p>秦浦ノ内 矢野結理奈</p>	<p>一まいの紙から、船が生まれる。飛行機が生まれる。ひとかたまりのねん土から、象が生まれる、生まれる。わたしたちの手から次々と。</p>
<p>秦浦ノ内 玉城 陸</p>	<p>一年生のときから、毎日、その小さな牧場のわきを通じて通学しているので、牧場のおばさんとは、いつのまにか顔見知りになっていた。でも、あいさつをするだけだ。</p>
<p>秦浦ノ内 玉城 陸</p>	<p>一年生のときから、毎日、その小さな牧場のわきを通じて通学しているので、牧場のおばさんとは、いつのまにか顔見知りになっていた。でも、あいさつをするだけだ。</p>
<p>須南 正木 希実</p>	<p>今日は、六月のはじめ夏がいきなり始まつたよ。うな暑い日です。松井さんもお客様も、白いワイシャツのそでを、うでまでたくし上げていました。</p>
<p>須南 正木 希実</p>	<p>今日は、六月のはじめ夏がいきなり始まつたよ。うな暑い日です。松井さんもお客様も、白いワイシャツのそでを、うでまでたくし上げていました。</p>
<p>波介 福永 瑞子</p>	<p>今日は、六月のはじめ夏がいきなり始まつたよ。うな暑い日です。松井さんもお客様も、白いワイシャツのそでを、うでまでたくし上げていました。</p>
<p>波介 福永 瑞子</p>	<p>今日は、六月のはじめ夏がいきなり始まつたよ。うな暑い日です。松井さんもお客様も、白いワイシャツのそでを、うでまでたくし上げていました。</p>

硬筆優秀作品

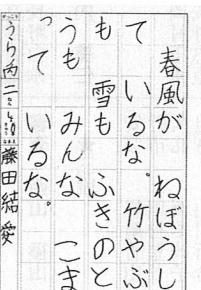
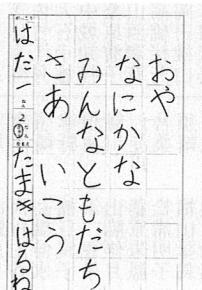
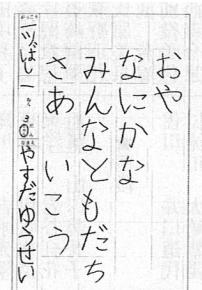
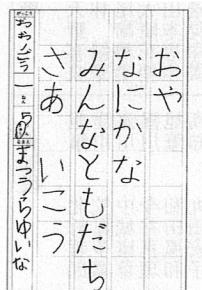
甲浦
おち
川田
おか
田ゆうせいば
おがゆつせり



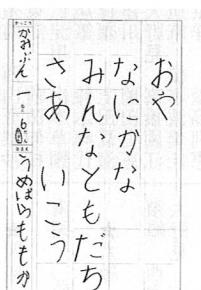
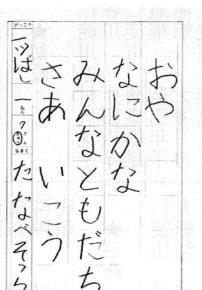
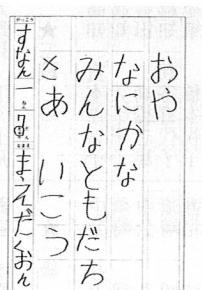
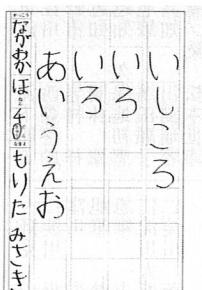
浦ノ内
うらノ内
矢野 そうま
うじはらいちの
うち
うらノ内
矢野 そうま



はだ
うらノ内
藤田
たまきはるね
はだ
うらノ内
藤田
結愛



おおのこう
おおのこう
まつうらゆいな
ながおか
もりたみさき



第894回 競書成績

○印規定・随意共通昇級

条幅

審查
福原
曉雲

(※印写真版)

★唯識

※ 江西澄翠
※ 西山極山
※ 岡林邦心
※ 中平幸仙

★天位

※須藤玲華
※野中恵花
※岩河里華
※中平美峰
※深瀬綠堂
弘田賀峰
中内桂香
伊吹悠道
河村容舟
岡林翠

卷之三

☆六位

※※北村哲郎
高橋桜芳
大平圭子
川渕瑞容
大石千施
町田白水
吉田深美
奥崎躍翠
大崎紫陽
岩崎竹山
利谷喜代子
氏原美泉
宮本キン子
岡田雄山
田村昭生

※笠原多嘉
中城知抄
西村由香
和田風和
今井真理
別役美佐
森光望春
岡村妙慧
藤原朱鳳
丸田宏子
山本恵歩

山高高王旭南山山東旭須波越須久須上須須
田知知子筆國田田洋筆崎介知崎礼崎分崎南

江西澄翠　石川美水　深瀬美堂　中野中惠花
山下枝雪　大庭桂紅　岡林邦心　野島桂山
須藤玲華　西内極山　市原處艸　塚地桂峰
水田紅子　河村容舟　弘田賀峰　岩河里華

規 定

窪佐須崎
川川崎
★六
審查 旭新山越吾久高窪山上多津旭旭越須香須池須久豊須吾窪窪旭
筆田田知桑礼知川田加ノ野筆筆知南北南川南礼中崎桑川川筆
江郷

天野喜泉 林 緑翠 尾崎勢葉
片岡政徳 山本恵歩 逸見翠雲
森光望春 池 芳春 氏原美泉
萩野羽翠 別役 美佐 西森令泉
芝居伯水 中城知抄 桑原智子
佐竹江月 大石千施 岡田雄枝
吉田深美 高橋青龍 長町白水
岡村玉水 矢野忠臣 広田秋桜

須南	久礼	安芸市	野市	佐川	佐川	堺原多嘉	北村哲郎
旭筆	審査	香北	須崎	仁淀川	仁淀川	中城康華	笠原博之
須南	吾桑	北崎	須崎	津野崎	津野崎	今井風和	高橋洋子
堺原	星	高橋伸	高橋伸	高橋伸	高橋伸	和田風和	吉水光翠
山川	舞	松浦明子	松浦明子	浜原	浜原	丸田宏子	伊吹悠道
百合	星	岡村妙慧	岡村妙慧	惠子	惠子	岩合紅花	山口美智子
田村	昭生	岩崎竹山	坂本絢子	藤原朱鳳	藤原朱鳳	北村哲郎	堺原博之
		田村星子	坂本絢子	山川星舞	山川星舞	高橋洋子	高橋洋子

須崎	東洋	大野見	佐川	仁淀川	吉村久美子	高知	越野知筆	旭市
須崎	東洋	大野見	佐川	仁淀川	吉村久美子	高知	越野知筆	旭市
須崎	東洋	大野見	佐川	仁淀川	吉村久美子	高知	越野知筆	旭市
須崎	東洋	大野見	佐川	仁淀川	吉村久美子	高知	越野知筆	旭市
須崎	東洋	大野見	佐川	仁淀川	吉村久美子	高知	越野知筆	旭市

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★出品票は黒枠をきちんと切つて下さい。
★臨書は出典名を記入のこと。

隨意

審查
梅川
桂龍

江西澄翠
岩河里
塚桂峰
弘田賀峰
須藤玲華
岡林邦心
水田紅子
中平美峰
山下枝雪
野島桂山
大原桂園
野中恵花
西山極山
深瀬綠堂
市原處岬
河村容舟
石川美水

萩野羽花 池芳春 田中恵風 大崎花梢 天野喜泉 吉田深美 奥崎躍翠 逸見翠雲

準師範

岡田雄山
中城知抄
別役美佐
氏原美泉
今橋伯水
高橋桜芳
西森令泉
森光望春
山本恵歩
芝田春琴
高橋青龍
長町白水
山西春草

井口道代
大崎紫陽
松浦明子
浜 恵子
藤原朱鳳
横山星舞

四段

五段

審查 塚地 桂嶺

柴田年子
鈴木輝代
大井淳
吉永美知
松島利恵

一
段

★二段

審査 松下 紫香 橋目実子 岡村妙慧

岩本恵美 橋 本波美江 前田伸枝 高橋園江 戸田吉孝 山本和美 濱田幸子
井上知勢子 杉本美代 井上増水 林 隆光 島千歩 上田夏海 田内史恵 西本れおな 級 中平 美峰

井上知勢子
杉本美代子
上増水
林 隆光
鍋島千歩
上田夏海
田内史恵

★一級

岩本恵美 橋本波美江 前田伸枝 高橋園江 戸田吉孝 山本和美 濱田幸子

(出品票)

のり代

2 年

6 月

条幅

氏名

名

臨書は出典名

〈お知らせ〉

○龍跳展については、五月二十四日(日)

審査会当日に、改めて話し合います。

詳しくは、決まり次第お知らせします。

○五月二十四日審査会終了後総務会を行
う予定です。

○七月号は6月12日(金)に発送の予定です。



連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎一三三一ー

隅田亘心

龍跳書道会 振替口座番号

01690-3-31925

電話 (0八八九) 三五一〇九七一一番

・月例作品の送り先

〒783-0081

南国市片山四九〇

西山極山

電話 (0八八) 八六五一八八五七番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-6410 安芸郡田野町一四五六一一九

廣末幽念

電話 (0八八七) 三八一五二一〇八番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六一八

江西澄翠

電話 (0八八九) 四二一一二〇六七番

・送本についての連絡先
(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話 (0八八九) 四七一〇七一一番

あとがき

今、新型コロナウイルスの蔓延で気のめいるような毎日で、先が見えないのがつらいです。そんな中で、三月には昇段試験、月例審査会を会員の皆さん協力で無事に終わりましたこと、感謝申し上げます。

あらたに全国的に緊急事態宣言が出され、不要不急の外出を控えるように宣言されましたので、今後の月例会、龍跳展にも影響が出るのではないかと氣をもんでいます。会員の皆さん準備だけは整えていて欲しいです。行事の変更等については追って連絡を取りたいと思います。

話をえますが、家の外へ目を移すと青空には鯉のぼりが泳ぎ、田んぼでは田植えが始まっています。気分転換に散歩でもどうでしょう。私は畑で土に触れ草引きなどしてストレス解消させてもらっていますが、長時間は無理です。机に向かって筆を持つのも良い事ですね。話をもとに戻しますが、誰も経験したことのない世の中となっています。うがい、手洗い、マスク着用を中心としましょう。会員の皆さんには、行事予定がたたなく迷惑をお掛けしますが、ご協力を願います。

月例競書課題

月例作品送り先	保育	年	年	年	年	小学六年	年	年	中学三年	半紙隨意	半紙規定	一般条幅	部別	締切日
													締切	締切
〒783 0081 南国市片山四九〇 西山極山宛	た	ろ	安	魚つ	大きな船	池の木立	学校放送	港の風景	任	澧水映園林	任	六月二十日	締切	
	こ	ば	全	り	船	富士登山	不言実行	樹陰読書	意	意	意	七月二十日	締切	
	う	せ	花	広い	松風の音	富士登山	不言実行	樹陰読書	任	竹覆経冬雪	任	七月二十日	締切	
	り	み	火	海	音				意		意			

会費の送金について

会費：半年分 3,000円／1年分 6,000円

1ヶ月の龍跳誌郵送料

(幸便搬送の方は元料不要)

Ⓐ	1冊～3冊	80円
Ⓑ	4冊～8冊	150円
Ⓒ	9冊・10冊	210円

11冊以上は次の計算による。(1ヶ月分)

$$\begin{aligned} \text{Ⓐ} & 12冊 \quad ⓒ + ⓐ = 290\text{円} \times \text{月数} \\ \text{Ⓑ} & 17冊 \quad ⓒ + ⓐ = 360\text{円} \times " \\ \text{Ⓒ} & 30冊 \quad ⓒ \times 3 = 630\text{円} \times " \end{aligned}$$

◎会費と龍跳誌元料は原則として半年分または1年分前納のこと。

◎送金は次の何れかへ

• 〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
• 振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会
(お問い合わせ) ☎ 0889-35-0971

○月号(○冊)より○月号まで○ヶ月分

誌代 ○円 / 元料 ○円

と記入のこと。

印刷所	発行所	発行人	編集室
(有) 笹岡印刷所	龍跳書道会	廣末幽念(本部)	江野島桂山
須崎市東古市町二二一六 電話(六八九)四二一〇二四四	電話(六八七)三八一五二〇八	安芸郡田野町一四五六一九 電話(六八七)三八一五二〇八	中平美峰 江西澄翠 廣末幽念